

71

脊椎骨の放射線照射による影響
- 骨シンチグラフィによる検討 -

吉田大輔, 吉田祥二, 西本 均, 小川恭弘, 前田知穂
(高知医大放射科), 赤木直樹, 久保嘉彦(高知医大放射科)

脊椎骨に転移のない悪性腫瘍患者で、脊椎を含む照射野で放射線治療を行い、その前後での骨シンチグラフィでの経過観察をし得た75例について照射野内における骨シンチグラム上の集積低下に関する検討を行なった。

方法は各骨シンチグラムをフィルムデジタイザーにて読み取り、256×256マトリックスで表示させたものに照射野、非照射野、バックグラウンドの各々の関心領域を設定し、照射前に対する照射後の各時期における集積低下度を求めた。対象症例は照射総線量別に分類し、各々について比較検討を行い、集積低下時期、集積低下度、集積再増加の有無、及び集積低下期における照射野内での骨転移発生に対する診断能につき検討を加えた。

72

軟骨肉腫の骨シンチグラフィ

有賀久哲, 栗原紀子, 金成柱, 高瀬圭, 丸岡伸, 中村護,
坂本澄彦 (東北大学医学部放射線科)

組織学的に軟骨肉腫と診断された15症例に対し、 ^{99m}Tc -MDPによる骨シンチグラフィを施行した。

症例は、男4例、女11例、計15症例で、その平均年齢は、43.5歳であった。発生部位は骨盤4例、肩甲骨3例、大腿骨、上腕骨、脊椎及び肋骨各2例である。術後局所再発3例、骨転移3例、肺転移4例がみられた。骨シンチグラフィでは、原発巣・骨転移巣に有意な取り込みが認められた。

軟骨肉腫は、一般に遠隔転移が少いと言われているが、我々の症例では3例に骨転移がみられた。骨原発巣・骨転移巣の検索、術後局所再発の経過観察に、骨シンチグラフィは有用な検査と考えられた。